新約聖書の中の奥義⑤

聖書フォーラム　福岡集会
2020年11月14日

出典：MBS182 "The Eight Mysteries of The New Testament"
Arnold G. Fruchtenbaum TH.M.,PH.D.

この学び全体は、５つの部で構成　P.1

1. イントロダクション
2. **奥義としての神の国**
3. 教会に関する５つの奥義
4. イスラエルがかたくなになることに関する奥義
5. サタンの２つの奥義と
   それを打ち破る神の8番目の奥義

第一部での重要ポイント

奥義＝ギリシヤ語の**ムステリオン**

新約聖書の中での**ムステリオン**は、特別な用語

旧約聖書においては啓示されていなかったが、

新約聖書において初めて明らかにされたこと

奥義の啓示は、使徒たちと預言者たちに

特に**使徒パウロ**は、「**神の奥義の管理者**」

第二部のアウトライン　P.1

A) 神の計画における「神の国」

B) 神の国がもつ５つの層

1. 全宇宙的な国、または永遠の国
2. 霊的な国
3. 神政の国
4. メシアの王国、または千年王国
5. **奥義としての神の国**

Ｂ－５のアウトライン　P.1

1. 「奥義としての神の国」という用語の定義
2. 「奥義としての神の国」のたとえ話
3. ９つのたとえ話のまとめ
4. **他の４つの層との区別、教会との区別**

本日の前半は、4番目の項目

前回のポイント　P. 1～2

「奥義としての神の国」の始まりと終わり
始まり＝イスラエルのメシア拒否（マタイ12章）
終わり
① イスラエルのメシア受容
② メシア再臨　⇒　大患難期は終結へ
③ メシアの王国までに75日間の準備期間
　諸国民の裁き（預言マタイ25：31～46）

９つのたとえ話のまとめ　P. 2

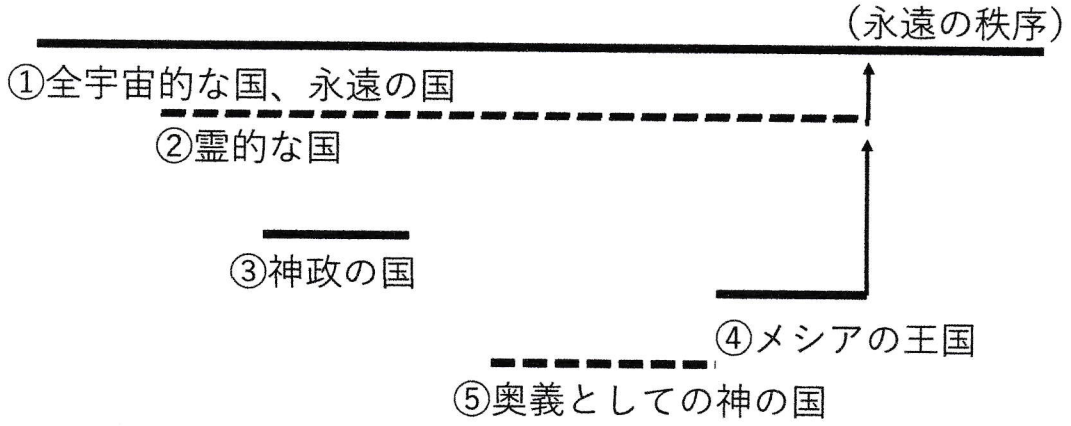
1. 福音の種まきが行われる。鳥による妨害
2. まかれた種は、自ら芽を出し、育つ
3. 対抗して偽の種まきも行われる
4. 大きく成長するが、鳥が来て巣を作る
5. パン種（罪、誤った教理）により膨らむ

９つのたとえ話のまとめ　P. 5～6

6. しかし、神の計画は進む。イスラエル民族の中から、少数の信仰者（畑の中の宝）が残される
7. 異邦人の中からも信仰者（真珠）が起こされる
8. 地引網＝諸国民の裁き　をもって終わる
9. 古い物（４つの層）と新しい物（5番目の層、奥義としての神の国）とを理解すれば、「神の国」について聖書を正しく用いることができる

それらは似ているところもあれば、そうでないところも

他の４つの層との区別　P.3



全宇宙的な永遠の国との区別　P. 3

1. 時間の観点で区別される
   - ①　全宇宙的な永遠の国は、永遠に続く
   - ②　奥義としての神の国は、時限的である
2. 領域の観点でも区別される
   - ①　全宇宙的な永遠の国は、全宇宙、物質界すべて、そして天使たちのいる霊の世界も含む
   - ②　奥義としての神の国の領域は、地上だけである

霊的な国との区別　P. 3

1. 国民の観点で区別される
   ① 霊的な国には、真の信者だけである
   ② 奥義としての神の国には、信者も不信者も
2. 奥義としての神の国の信者は、同時に「霊的な国」の国民でもある

神政の国との区別　P. 3

1. 国民の観点で区別される
   ① 神政の国は、イスラエル民族のみが国民である
   ② 奥義としての神の国は、ユダヤ人も異邦人も、全人類

メシアの王国との区別　P. 3〜4

1. 支配者の観点で区別される
   ① メシアの王国では、王であるイエス・キリストは、地上のエルサレムにいて、地上の全世界を支配する
   ② 奥義としての神の国では、イエス・キリストは、天に
2. 信者だけでなく不信者もいる点では似ている
   ① メシアの王国スタート時は、信者のみ
   ② 第２世代以降は、信仰を持つまでは信者ではない

教会との区別　P. 4

1. 教会時代は奥義としての神の国の時期に含まれる
   ① 奥義としての神の国は、マタイ12章で始まった。このときは、教会はまだ存在しない。教会は使徒2章の聖霊降臨で誕生
   ② 地上の地域教会の中には、信者と不信者とが混在する【奥義としての神の国とキリスト教界が重なっている状態】
   ③ 教会時代は、携挙によって終わる。その後も、奥義としての神の国は続く

教会との区別　　P. 4

2. 教会時代が終わった後の奥義としての神の国
   ① 教会の携挙後、地上は大患難期に入る
   ② 大患難期においても、人は神の恵みにより信仰を通して救われる。彼らもまた「良い麦」である。
3. 大患難期は、奥義としての神の国の最終局面
   ① 大患難期は全部で7年間
   ② メシアの再臨により、終結へ
   ③ その後、75日間の準備期間
   ④ その準備期間の中で、「地引網」＝諸国民の裁き。これをもって、奥義としての神の国は終了する。

第三部　教会に関する５つの奥義　P. 5

A) 七つの星と七つの金の燭台の奥義

B) からだの奥義

C) 内住のメシアの奥義

D) メシアの花嫁としての教会の奥義

E) 信者の変換の奥義

本日の後半は、A)七つの星と七つの金の燭台

１．黙示録1：20　　P. 5

あなたがわたしの右手に見た七つの星と、七つの金の燭台の**秘められた意味（ムステリオン奥義）**について。七つの星は、七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

２．黙示録1：12～16　　P. 5

1. 12節　ヨハネは七つの金の燭台を見た。
2. 13節　七つの燭台の真ん中に、人の子のような方（＝メシア）を見た
3. 13～16節　メシアの姿に関する説明

２－3　メシアの姿　P. 5

① 足まで垂れた衣をまとう
② 胸に金の帯を締める
③ 頭と髪は、白い羊毛や雪のように白い
④ 目は燃える炎のよう
⑤ 足は、炉で精錬された、光輝く真鍮のよう

２－3　メシアの姿　P. 5

⑥ 声は大水のとどろきのよう
⑦ 右手に七つの星を持つ
⑧ 口から、鋭い両刃の剣が出ていた
⑨ 顔は、照り輝く太陽のようであった

３．　20節　奥義の内容　P. 5

1. 七つの金の燭台は、七つの教会
2. 七つの星は、その七つの教会の御使いたち

４．　七つの金の燭台　P. 5

1. 旧約聖書には、七枝の金の燭台（メノラー）
   これは、イスラエル民族のシンボル
2. 黙示録では、燭台は、イエスをメシアである
   と証言する信仰者たち（11：3～4）
3. **「七つの金の燭台＝七つの教会」**
   →金の燭台一つひとつ＝地域教会の一つひとつ

４．　七つの金の燭台　P. 6

4. もし、金の燭台である地域教会が、その使命を果たさなくなったら、どうなるか

黙2：5　わたしはあなたのところへ行って、あなたの燭台をその場所から取り除く

５．　七つの教会の御使いたち　P. 6

1. 星は、多くの場合、天使を象徴する
2. 奥義となる内容は、地上の地域教会一つひとつに、守護天使がついている、ということ
3. 天使の役割：神からの祝福や神の裁きをもたらすこと　→　黙2章と3章の手紙の内容も、神からの祝福と神の裁き

5.　七つの教会の御使いたち　P. 6

4.　【補足】天使による守護

① 子どもの守護（マタイ18：10）
② 信者の守護（詩34：7、91：11、ヘブ1：14）
③ 地域教会の守護（黙1：20、2章と3章の七つの教会の御使いたち）

【参考資料】聖なる天使たち　P. 6～7

1. 聖なる天使たちの呼び方
2. 天使の現れ方
3. 天使の外観の特徴
4. 天使を見たときの人間側の反応は「恐怖」
5. 天使の特質
6. 天使の組織
7. 天使の働き（信者との関係において）
8. 「天使を裁く」（Ⅰコリ6：3）について